

県立図書館で調べよう

新潟芸妓のこと

江戸時代、新潟は北前船きたまえぶねの寄港地として栄え、やがて湊町独特の文化が根付いてゆきました。その文化を象徴する芸妓げいぎとは、歌や舞によって宴席に彩りを添え、訪れる人々をおもてなしする女性たちのことです。はるか江戸の昔から200年の時を越え、今なお新潟に息づいている新潟芸妓たち。彼女たちはどのような生活を営み、何を想っていたのでしょうか？



『新潟花かがみ』（新潟県立図書館所蔵）

新潟県立図書館

凡例

『 』内は図書または雑誌のタイトル。

「 」内は論文のタイトル。

タイトルの後は、版・巻次、著編者、出版社、出版年、当館請求記号。請求記号は〔 〕内に記入。資料には館外貸出できない資料もあります。貸出の可否は、蔵書検索の「取扱区分」で確認してください。「取扱区分」に「禁帯」とあるものは、館外貸出できません。

図書資料

「図書館」と言えば、やはり「図書」を連想される方が多いのではないのでしょうか。まずは、新潟芸妓について書かれている図書の中から、図書館員のおすすめする図書を時系列でご紹介します。

総合

- ・『^{みなとまちにいがた}湊町新潟に伝承する文化・芸能の歴史的資料』湊町に伝承する文化・芸能の歴史的資料編纂事業委員会／編 東日本鉄道文化財団 2009 [N*213/Mi39] *古く江戸時代から続く湊町新潟の歴史や、新潟港の繁栄に伴い花開いた古町芸妓文化についてまとめています。古町芸妓については、特に「第4章 古町花街と古町の料亭文化」（藤村誠／著）に時系列順に詳述されています。
- ・『^{かがい}新潟の花街』藤村誠／著 新潟日報事業社 2011 [N384/F63] *はるか江戸の昔から、新潟の花街は全国屈指の「遊所」として知られていました。その盛衰と現代に至るまでの歩みを豊富な図版と資料で辿ります。
- ・『^{にいがたこんじゃくそうし}新潟今昔草紙』松本春雄／著 新潟風土記刊行会 1959 [N213/Ma81] *新潟港、新潟町の今昔に様々な角度から焦点を当てています。写真を豊富に掲載し、貴重資料を網羅的に紹介しているため、入門書に適しています。
- ・『新潟市史』新潟市史編さん民俗部会／編 新潟市 1989～1998 [N2*13/N72] *市政100周年記念として刊行した新潟市の歴史資料です。平成13（2001）年合併以前の新潟市域の歴史を古代から現代にいたるまで詳細に記述しています。通史編5巻、別編2巻、資料編13巻。別編第2巻【索引】から、調べたい項目を探すことができます。

安政期（1854年～1859年）

- にいがたのち つきみ
・『**新がた後の月見**』結城利之／著 1856 [004／別4] ＊文政2（1819）年に刊行された洒落本の原本。土産物として親しまれました。越後佐渡デジタルライブラリー（p 7参照）で閲覧することができるほか、早稲田古典籍総合データベースでも異版2冊がデジタル化されています。新潟における公娼、八百八後家（はっぴやくやごけ）などについて記されています。

挿絵「白山祭礼傾城宮参之図(はくさんさいれいけいせいみやまいりのず)」は、江戸時代の古町花街における有名な風習を描いたものです。白山祭礼の3月18日には、古町の誇る花妓たちが、互いに美しい衣装や髪飾りを競い合いながら、二度、三度と参詣したとい



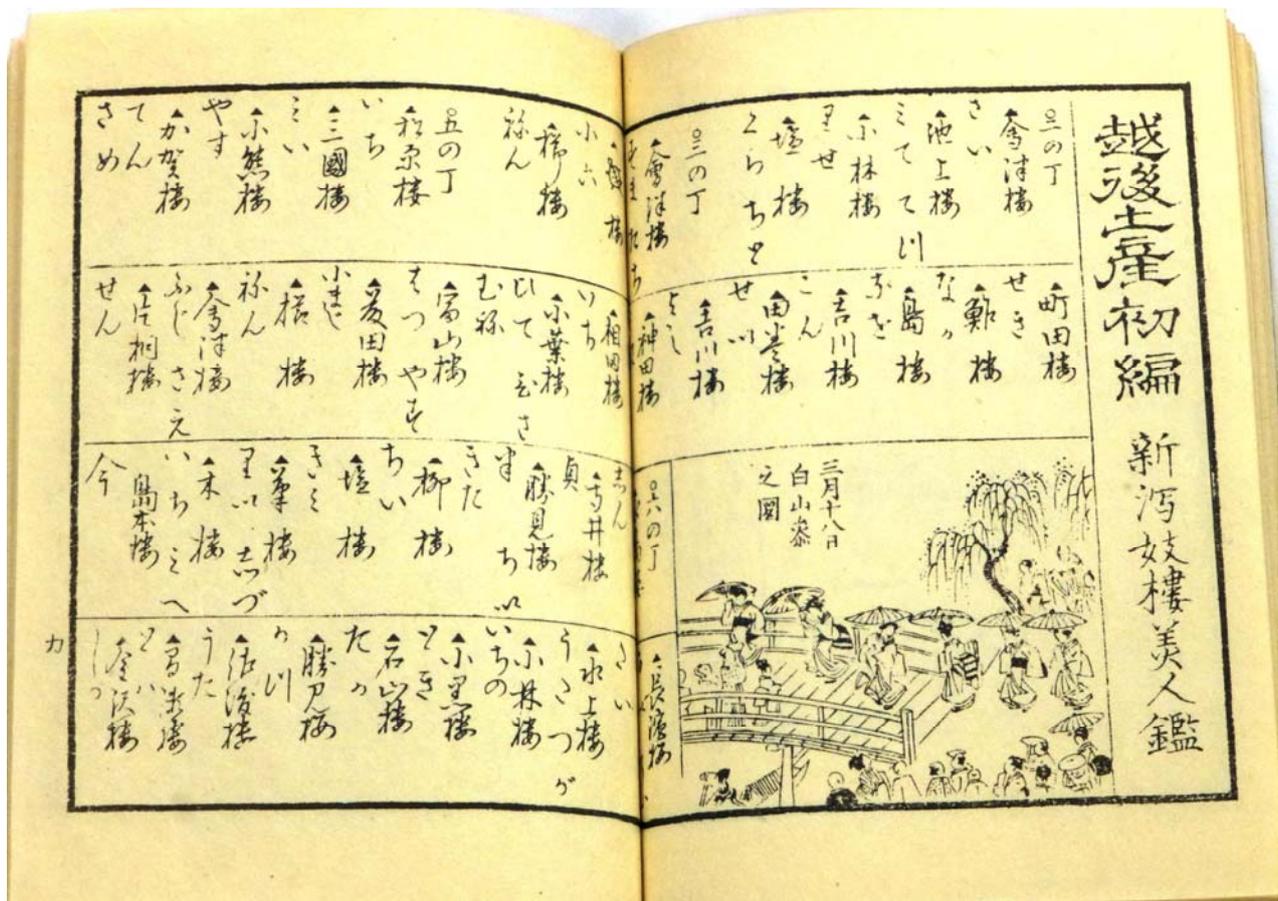
『新潟後の月見』（新潟県立図書館所蔵）

挿絵「白山祭礼傾城宮参之図(はくさんさいれいけいせいみやまいりのず)」

- 『^{にいがたふし}新潟富史』寺門静軒／著 克己塾 1859 [003/2] *寺門静軒は寛政8(1796)年、江戸に生まれた儒者。駿河台に私塾克己塾を開設し、この塾から天保年間に刊行した『江戸繁盛記』は江戸の名勝、遊興、風俗などを活写して大好評を博しました。しかし風俗描写が好ましくないとして発禁処分を受けてしまい、静軒は放浪生活に入ります。安政6(1859)年、その『江戸繁盛記』の姉妹編として『新潟富史』を刊行し、江戸時代末期の新潟の様子を描き出しました。原本には十行本と十一行本と言われる2つの異版があり、いずれも当館で原本を所蔵しています。また、明治期に翻刻された活字本や、注釈や現代語訳の付されたものなどもあります。国立国会図書館の近代デジタルライブラリーで翻刻版を閲覧することができます。(越後佐渡デジタルライブラリーでも可* p 7 参照)
- 『探検・紀行・地誌 東国篇』竹内利美 [ほか] /編 三一書房 1969 [382/N77/3] *江戸浄瑠璃の一派に属する、富本節の無名の語り手、富本繁太夫の新潟見聞記『筆満加勢』を所収。繁太夫は天保元(1830)年5月、12日間に渡り新潟に滞在し、当時の新潟町の様子を活写しました。原本は狩野文庫に現存しており、同著にはそのうち奥羽越後紀行(一、二冊)が印行、収録されています。
- 『江戸の極楽とんぼ』織田久／著 無明舎出版 1997 [291.7/O17] *『筆満加勢』の著者、富本繁太夫の伝記。「X声の出ぬのが口惜しい」の中で、新潟滞在時の旅模様が描かれています。
- 『越後いろざと奇聞』田中一郎／編著 新潟日報事業社 2005 [N384/Ta84] *江戸時代における、越後各地の色里、花町の沿革を概観する資料です。越後色里に関わる著名な資料を時系列に追うことができます。また、参考文献一覧が掲載されています。

元治期（1864年～1865年）

- ・『越後土産』 紀興之／編 出版社不明 1864 [000／別19] *元治1（1864）年刊行、2冊。江戸時代の越後案内で、もっとも知られている本のひとつとされています。編者の紀興之は会津出身、鼓の師匠をしながら、越後の隅々まで巡歴しました。生没年は未詳。91軒の妓楼、114名の芸妓、遊女を網羅的に紹介し、江戸最終期における古町花街の概要を明確に記した労作です。古町芸妓については、古二の町から古六の町（古町通り9番町）まで、町別に妓楼名と、その妓楼お抱えの芸妓、遊女の名前が掲載されています。初篇には「新潟妓楼美人鑑」が掲載されています。越後佐渡デジタルライブラリー（p7参照）で閲覧できます。



『越後土産』（新潟県立図書館所蔵）

*写真は1972年に野島出版から刊行された復刻版を撮影したものの。

- ・『新潟古老雑話』鏡淵九六郎／編 新潟県民俗学会 1933 [N 2 * 1 3 / K a 1 6] *徳川時代末期から明治初年にかけての、新潟の町並み、風俗、人物、事件などを、古老百人からの聞き書きで再現しました。古町芸妓についても記述があります。

明治期（1868年～1912年）

- ・『新潟花かがみ』吉川成蔵 金子錦二／著 安藤広重／画 1879 2冊 [004 / 別41] *明治12（1892）年刊行、上下2巻。著者の金子錦二は五泉出身の新潟新聞の記者でしたが、主に京都で活躍しました。錦絵は立斎広重（2世）の手になります。また、戯作者として名高い仮名垣魯文が序を寄せています。上巻が当時の名妓25名の錦絵、下巻がその評判記と対照的な構成を取ります。越後佐渡デジタルライブラリーで閲覧できます。（p 7参照）
- ・『新潟芸妓の世界』和田閑吉／著 新潟日報事業社 1973 [N 3 8 4 / N 7 2] *料亭「行形亭」「鍋茶屋」の主や、古町名妓と謳われた新玉屋たま、越中家力弥、戦中期に芸妓を務めた女性らへの聞き書きを中心に構成されています。資料編には、『新潟富史』『新潟古老雑話』中の古町芸妓に係る部分の抜粋口語訳などがあります。

大正期（1912年～1926年）

- ・『新潟遊覧案内』垣原正人／著 新潟公友社 1922 [N 2 1 3 / K a 2 5] *大正11（1922）年に刊行された新潟市のハンドブックです。巻頭には、古町美人と題し古町、沼垂を中心に新潟芸妓の写真が掲載されています。「序」によると「遠来の視察遊覧者の便せんとし」、「新潟市政のがいせつと商工業及び教育の現状等」を重視した、とあります。
- ・『新潟遊女考』風間正太郎／著 高志書院 1999 [N 3 8 4 / K a 9 9] *明治38年2月11日から同年12月27日にかけて、著者が筆名を「夢介」と名乗り、「東北日報」に連載したものの翻刻版です。1934年以前では唯一の新潟町の買売春に関する研究

とされています。

- ・『新潟の町 古老百話』 沢村洋／著 新潟日報事業社 1974 [N2*13/Sa95] *明治・大正期に生きた人々の経験談を数年間に渡り収集・採録した郷土資料です。

昭和期（1926年～1989年）

- ・『ふるまち』 新潟三業協同組合／編・発行 1966 [N384/N72] *新潟三業協同組合の刊行した古町の観光ガイドブック。刊行当時の料亭一覧、芸妓一覧、新潟の民謡などが掲載されています。
- ・『^{はなまち}新潟花街』 渡辺一雄／編 新潟市観光協会 1962 [N384/W46] *1960年に刊行されたものの改訂版。写真が豊富に掲載されているほか、「新潟古街芸妓連名」や「新潟民謡」、「新潟花街料亭図」、「新潟市料理業名簿」など、さまざまな内容が盛り込まれている。「新潟古街芸妓連名」は芸妓たちのプロフィールをリストにしたものです。屋号・芸名はもちろん身長、体重、果ては芸妓各人の酒量までを一覧することができます。

平成期（1989年～） ———— そして、現代へ

- ・『^{みなとまち}湊町 ^{ふるまちげいぎ}新潟古町芸妓』 藤村誠／監修 岩崎久太／監修 第一印刷所 2009 [N384/D18] *平成の新潟古町に残る芸妓文化を、わかりやすくまとめています。カラーで印刷されており、振袖、留袖といった華やいだ衣装や、さらに彩りを添える道具類が紹介されています。「柳都」さんと呼ばれる、柳都振興株式会社に所属する平成の芸妓たちの写真や、花代なども掲載されています。かつて幾本にも張り巡らされていた掘が埋め立てられたいまもなお、芸妓文化が留めている名残りを感ずることができます。

雑誌記事

ここでは、新潟県関係雑誌に収録された、新潟芸妓に関する記事を紹介합니다。これらの記事が掲載されている雑誌は、全て当館で所蔵しています。

- ・「明治十三年新潟芸妓稼高」網干嘉一郎／著（『郷土新潟』3号（1963. 10）88p）
- ・「はじめて宮様の前に現れた新潟芸妓」小島一作／著（『郷土新潟』13号（1970. 03）90～91p）
- ・「新潟の芸妓」吉田ふじ／著（『かみくひむし』100号（1996. 4）56～58p）
- ・「巫女爺余話 南柯亭芸妓お杉さんの回想」小杉達太郎／著（『小千谷文化』163号（2001. 08）6～10p）
- ・「探訪 新潟の芸妓文化を考える(その1)鍋茶屋 代表 高橋すみ」高橋すみ／著（『にいがたの現在・未来』390号（2006. 04）28～31p）
- ・「探訪 新潟の芸妓文化を考える(その2)財団法人 新潟観光コンベンション協会専務理事 平成17年度にいがた観光カリスマ 樋口潤一」樋口潤一／著（『にいがたの現在・未来』391号（2006. 05）29～31p）
- ・「探訪 新潟の芸妓文化を考える(その3)柳都振興(りゅうとしんこう)株式会社」(『にいがたの現在・未来』392号(2006. 06) 24～27p)
- ・「花街の民俗 小千谷花柳界と芸妓 広井忠男／著(『小千谷文化』186・187号(2007. 03) 74～84p)

調べ方のヒント

調べ方のヒントとして、インターネットから目的の情報を探し出すのに有用なデータベースをいくつかご紹介します

郷土人物索引データベース（新潟県立図書館ホームページ
<http://www.pref-lib.niigata.niigata.jp/>内）＊当館所蔵の新潟県関係図書から新潟県出身または新潟県に影響を与えた人物を採録した人物索引です。1885年から刊行された人名事典、百科事典、市町村史などに

記載された人物を採録しています。人物名からその掲載資料名とページを調べることができます。

雑誌記事索引データベース（新潟県立図書館ホームページ

<http://www.pref-lib.niigata.niigata.jp/>内）＊当館所蔵の新潟県関係雑誌に掲載された論文や記事を探することができます。郷土研究雑誌を中心に記事を採録していますが、詩歌などの文芸作品や行事記録などの記事は採録対象から除外しています。

越後佐渡デジタルライブラリー（新潟県立図書館ホームページ

<http://www.pref-lib.niigata.niigata.jp/>内）＊当館と新潟県立文書館が所蔵する新潟県関係歴史資料などを公開しています。「キーワード」や「カテゴリ」から、デジタル資料を検索することができます。

早稲田大学古典籍総合データベース（早稲田大学図書館ホームペ

ージ <http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/>内）＊早稲田大学図書館が所蔵する古典籍について、その書誌情報と関連研究資料、さらには全文の画像を広く一般に公開しています。総数は約30万冊、国宝2件、重要文化財5件を含みます（2013年8月現在）。デジタル資料を書誌とともに画像で閲覧することができます。

日本古典籍総合目録データベース（国文学研究資料館ホームペ

ージ電子資料館データベース <http://www.nijl.ac.jp/pages/database/>内）＊日本の古典籍の総合目録。（一部、漢籍・明治本を含む）。『国書総目録』（岩波書店刊）の継承・発展を目指して構築した、いわば「新国書総目録」ともいうべきものです。古典籍の書誌・所在情報を著作と著者の典拠情報とともに提供しています。書名や著者名の別称、またその典拠を知ることができます。

花朧がために開くに遅く

この小冊子の表紙を飾るふたりの名妓のうち、左側の女性の名を「漆屋お安」と言います。明治初年に書かれた『新潟花かがみ』は上巻が錦絵、下巻がその評判記という構成になっていますが、下巻評判記には著者の金子錦二による次のような彼女への賛辞が掲載されています。錦二は、

「花朧がために開くに遅く、月朧がために出ず、
楊柳何ぞ窈窕ならん、梅香何ぞ香馨あらん…
…」

と、延々とお安の美しさを称える言葉を重ねた後で、

「褒過らしき言の葉も、嘘じゃ御座らぬ本港の、当時日の出の立娼妓、上等株の流行媛」と得意の戯作文を締めくくっています。上下巻ともに越後佐渡デジタルライブラリーで全文を閲覧することができます。艶やかな姿絵と評判記から、25名の名妓たちのそれぞれに際立つ個性と美貌を、感じてみてはいかがでしょうか。

平成25年12月

新潟県立図書館

新潟市中央区女池南3-1-2

TEL 025-284-6001 (代表)

<http://www.pref-lib.niigata.niigata.jp/>